法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-05

法政大学経済学部における株式投資コンテストによる金融リテラシー向上の取り組み

OKABE, Masashi / 岡部, 雅史

(出版者 / Publisher)
法政大学多摩研究報告編集委員会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
Bulletin of Hosei University at Tama / 法政大学多摩研究報告
(巻 / Volume)
37
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
13
(発行年 / Year)
2022-10-30
(URL)
https://doi.org/10.15002/00026154

法政大学経済学部における株式投資コンテストによる金融リテラシー向上の取り組み

岡部雅史 [1)]

Efforts to improve financial literacy through a stock investment contest at the Faculty of Economics, Hosei University

Masashi OKABE

初めに

法政大学経済学部では学部学生の金融リテラシー向上のため、2019 年度よりネット上の株式投資シミュレーションプログラムを用いた株式投資コンテストが行われている。

今年度（2022 年度）は開催回数も第 4 回を数えるに至り、投資ルールやコンテストカテゴリー、入賞制度もある程度整ってきた。

このシミュレーションプログラム（株式学習ゲーム）は日本証券業協会（JSDA: Japan Securities Dealers Association）と東京証券取引所（Tokyo Stock Exchange: TSE, 日本証券取引所グループ Japan Exchange Group: JPX に属している）の共催によって 1996 年より稼働している。協会によれば、この日本版のプログラムは米国の教育現場にて実績のある Stock Market Game（https://www.stockmarketgame.org）（図 1）を参考にして開発されたとしている。

プログラムでは仮想所持金 1000 万円を原資として、実際の株価（毎営業日の終値）に基づいてシミュレーション売買を行う。この取引を通じ、様々な要因で変動する株価を推測・判断し売買を行うことにより証券市場のダイナミズムを理解することを目的としている。

図 1　Stock Market Game のサイト

本報告では、経済学部におけるコンテストの概要と、投資に有益と考えられる参考資料、参加学生たちの投資行動について、今年度（2022 年度）から新設された ETF 銘柄限定の取引例（2021 年 12 月 ～ 2022 年 6 月）を主に紹介する。

コンテストの概要

参加対象

法政大学経済学部に所属するゼミ学生（入門ゼミも可）をコンテストの参加対象

1）法政大学経済学部

2022年度　第4回株式投資コンテスト
参加ゼミ受付中！！

概要
ネット上の株式投資シミュレーションシステム　http://www.ssg.ne.jp/index.html
を用い、仮想資金1000万円を原資に株取引を行います。
終了時の資産合計額（保有株式の時価評価額＋手持ち現金）にて入賞を競います。
期間：5月9日（月曜日）～11月25日（金曜日）
（134営業日）　10月下旬まで途中参加ゼミを受け付けます。
取引コース：Aコース（手数料・税金は計算しない）
取引ルール：50円以下銘柄の買い注文禁止（チート取引防止措置）
参加方法：ゼミ教員は上記システム上にてシミュレーション利用申し込み（Aコースに○）し、ゼミ内のチームを登録してください。チーム登録が完了しましたら、コンテスト事務局長までメールにて参加登録（書式自由ただしゼミ名・ゼミ長の氏名＆メールアドレスおよびライン連絡先を明記）をしてください。
（事務局長　西田美旺　mio.nishida.9t@stu.hosei.ac.jp　）
カテゴリー
カテゴリー１：シミュレーションにて取引可能な全ての銘柄の取引
カテゴリー２：ETF（上場投資信託）に限定した取引（およそ260銘柄）
チーム入賞：各ゼミトップチーム　カテ１・カテ２　それぞれ1位～６位
団体戦入賞：各ゼミ２～５チームの平均額　カテ１・カテ２　それぞれ1位～６位
団体戦参加は各ゼミ教員の任意判断とします。
説明会：5月6日（金）、5月9日（月）201号教室　昼休み13:00～13:20

一般銘柄・ETF銘柄の最新情報は、東証マネ部、かぶ探、会社四季報online、などをネット検索、あるいは最新の会社四季報を参照してください。

参加登録・質問など連絡先：運営幹事　岡部ゼミ　事務局長　西田美旺
mio.nishida.9t@stu.hosei.ac.jp

図２　コンテストの参加ゼミ募集のポスター

にしている。2021 年度からは経済学部同窓会会員の参加も始まっている。図 2 にコンテストの参加ゼミ募集のポスターを載せる。

コンテスト開催年の年度初めにこのようなポスター（A1 サイズ）を作成し経済学部各所の掲示板に掲示しコンテストへの参加を促している。

コンテスト期間

例年、ゴールデンウィーク明けの最初の証券市場営業日から 11 月第 4 週の金曜日までをコンテスト期間として設定している。東京証券市場の営業日数、システムの夏季メンテナンス期間（8 月お盆シーズンに 1 週間ほどシステム休止となる）を勘案すると毎年 130 営業日余りのコンテスト期間となる（2022 年度は 134 営業日となる）。このコンテスト期間中は最後の 1 ヶ月を除いていつでも参加自由という条件にしてある。半年にもわたる長めのコンテスト期間を設定していることにより、参加学生に投資行動の習慣化を促すこと、ほぼ全ての上場企業の四半期決算（3 ヶ月ごと）の開示を投資に活かせること、損失が生じても投資戦略の立て直しなどで復活できる時間的余裕があること、コンテストのマンスリーレポート（参加チームの資産合計額が毎月発表される）を見て他参加チームの状況を考慮し、参加するタイミングをはかれること、自チームの全体の中の位置が把握でき、投資戦略に反映させられること、入門ゼミ（1 年生）では後期（9 月）から参加する事例などがあり、多忙なゼミにとっては時間的な制約も少なく利点が多い。

コンテストでは参加者の銘柄の売買頻度を可能な限り上げるために A コース（委託手数料 0.5% および譲渡益税 20% を計算しないコース）にて運営をおこなっている。

図３　コンテストのログインページ

図４　コンテストの申込ページ

ゼミ教員のシステム利用申し込み方法

このシステムの利用申し込みは教員のみができるようになっている。

https://www.ssg.ne.jp から web 上で申し込みが可能となっている。ログインページ（図 3）右側の参加申し込みボタンを押し、さらに 2 ページ目（図 4）にある赤色の申し込みフォームボタンを押し、web 申し込みページへと移行する。フォームに記入する際の注意点として郵便番号と申込者 ID（自分で設定）が後日必要になるのでメモ、画面コピーなどをしておくと良い。

申し込み後すぐに証券業協会から受付完了メールが配信され、2 ～ 3 営業日中にチーム登録が可能になる旨が記載されている。初ログインの際に郵便番号と申込者 ID を記入すると、学校コード、学校パスワード、先生専用チームコード、先生専用チームパスワードが表示されるのでメモするか、画面コピーをとっておくと良い。

チーム登録は教員の意向に沿った編成が可能である。数人のチームをゼミ内に複数編成することや、1 人 1 チームで編成することも可能である。筆者のゼミ（学生 14 人）では 1 人 1 チーム、全 14 チームで編成している。このシステムでは資産合計額に応じてランキング表示されるため、学生各人の投資パフォーマンスに応じて個別指導が行いやすいメリットがある。

参加申し込みが終了すると数日でテキスト冊子（大学生のために証券市場と株式会社の基礎知識）（図 5）が参加人数分送付されてくる。この冊子には株式投資に関する基礎歴な事項が記載されている。一部抜粋して紹介する。このシミュレーションシステムでは東京証券市場に上場されているプライム市場、スタンダード市場、グロース市場　および ETF（Exchange-Traded Fund）上場投資証券（図 6）に分類されている銘柄が売買対象となっている。東京証券市場に上場している約 3500 銘柄のうち約 3200 銘柄がシミュレーション売買の対象となる。ETN（Exchange-Traded Note）上場投資証券、指標連動証券約 60 銘柄　および、REIT（Real Estate Investment Trust）不動産投資信託　約 200 銘柄は売買対象ではない。ただし東証にて ETF 化された REIT 銘柄は ETF

図 5　大学生のために証券市場と株式会社の基礎知識

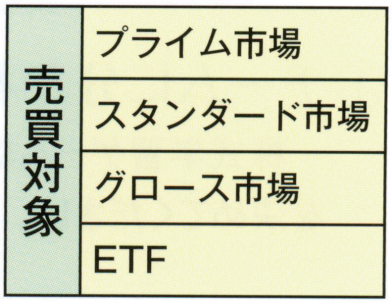

図 6　市場の分類

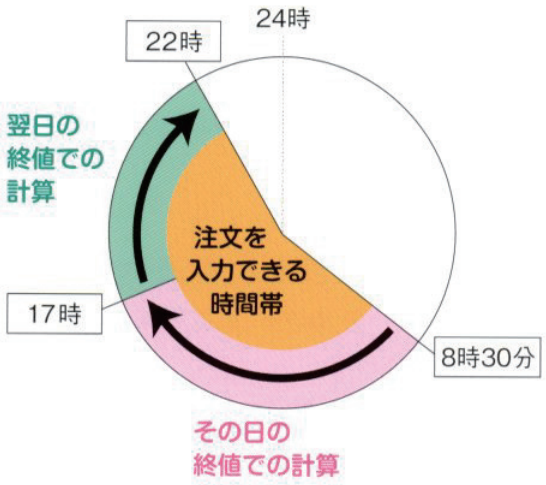

図 7　取引時間

銘柄として売買が可能である。

このシミュレーションシステムでは、売買注文時間が証券市場の営業時間よりも長く設定されている。17 時までに売買注文を出せばその日の終値で約定される（図 7）。

コンテスト参加者が利用する参考 URL、参考書など

株式銘柄の選択において、最も重要なことは銘柄に関する適切な情報であり、闇雲に有名企業の株式だからといって投資しても意図する収益は上がらない事が多い。コンテスト参加チームの学生たちがよく利用している参考資料を 2 つ紹介する。

1　かぶ探（Kabutan: https://kabutan.jp）

図 8 にトップページを示した。

毎営業日の全銘柄の騰落状況のリアルタイム表示がなされているため、銘柄情報の検索の際によく参照・利用されている。ここの特徴は市場ニュース、決算速報、株価注意報、会社開示情報など　銘柄選択の際に重要な情報が即時的に提供される事であり、株式公開買い付け（TOB）や株式分割など、株価に大きく影響を受ける情報もリアルタイムに表示されるため個人投資家、機関投資家も広く利用している。また、ゴールデンクロス、デッドクロス、MACD（移動平均収束拡散）、ボリンジャーバンドなどを含めた株価推移チャートからのテクニカル分析や、企業の財務状況（決算状況、最高益、PER、PBR、ROE など）をもとにしたファンダメンタル分析などの項目も充実しており、銘柄選びの際には極めて重要な情報源となっている。株式投資を始めるなら絶対に参照すべき情報源である。

また、全 ETF 銘柄（約 270 銘柄；2022 年 8 月時点）の情報検索、騰落状況、関連ニュースの掲載なども充実している。　毎営業日の ETF 騰落状況をチェックすることは極めて重要であり、各種 ETF の株価変動トレンドの把握が容易になる。

2　JPX（日本証券取引所グループ）

図 9 にトップページを示した。

ETF 銘柄は毎年 10 銘柄ほどが新規に上場されている。最新の ETF 銘柄情報は日本証券取引所グループ：JPX のホームページに掲載される（https://www.jpx.co.jp）。

また、JPX では ETF 取引を行う投資家向けに書籍の販売も行っている。東証公式 ETF・ETN ガイドブック（図 10）では各種 ETF 銘柄が連動するインデックスごとに分類されており、東証公式 ETF・ETN 名鑑（図 11）では ETF 銘柄の関連情報（連動インデックス、構成銘柄・割合、運営管理会社など）が要領よく掲載されているため、両冊子は ETF 取引を行う際には必携の参考図書となっている。

なお、ガイドブックについては JPX のホームペー

図 8　かぶ探のサイト

図９　JPX のサイト

図 10　東証公式 ETF・ETN ガイドブック（第 7 版）

図 11　東証公式 ETF・ETN 名鑑（2022 年 6 月版）

ジより pdf ファイルがダウンロード可能となっている（2022 年 9 月）。

いくつかの投資例

参加各チームには 1000 万円を投資原資として与えられる。資金をどのように投資するかはチームの投資戦略に沿って自由に運用されるが、コンテストにて限られた期間内に可能な限り収益を上げようとするならば投資指針はある程度定まってくる。以下の例は 2021 年度、2022 年度コンテストの参加者の投資結果の一部から紹介する。

1 ー買い持ち（Buy & Hold）

長期間値上がりが見込める銘柄に投資する場合は、コンテスト期間初期に投資資金のほとんどを費やして買い持ちし（Buy & Hold）値上がりを待つという運用方針が効果的である。資源銘柄、エネルギー銘柄など国際的な需給要因によって半年以上の期間、価格上昇が続く例もある。図はそれぞれ、原油（図 12）、大豆（図 13）の ETF 銘柄の値動きを示す。両 ETF 共に 2021 年 12 月以降、6 カ月以上に渡り株価の上昇が認められる。このような銘柄の場合は Buy & Hold が奏功する。いくつかの銘柄でポートフォリオを組む場合、この方針は銘柄メンテナンス（入れ替え）が非常に簡便である。銘柄株価の下落にさえ注意しておけば良い。

一般的に株価の推移は長期の値上がり時においても一直線に上昇カーブを描くことはなく、数日から 1 ～ 2 週間の周期で小刻みに増減を繰り返しながら（ランダムウォークしながら）全体として上昇ラインを描くことが多い。1 週間程度下落基調が続き、無用な不安に駆られ狼狽売りなどに走らぬよう注意が必要である。

実際のシミュレーション取引例を示す。図 14 はこのシミュレーション取引において、WT　WTI 原油（銘

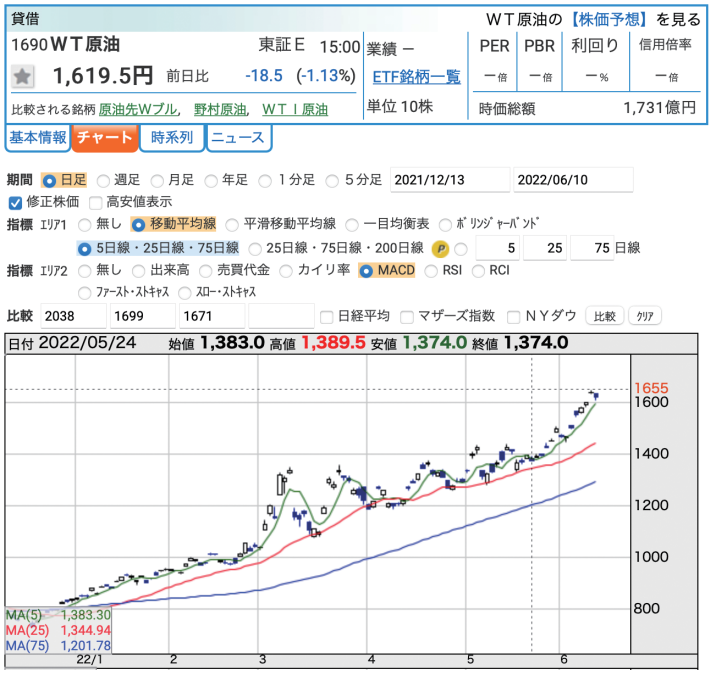

図 12　1690WT 原油

図 13　1697WT 大豆

柄コード 1690）、WT 大豆（銘柄コード 1697）の両銘柄を 1000 万円を原資に Buy & Hold した際の資産合計額（赤線）の推移を示した（2022 年 4 月 6 日に購入、以降ホールド～6 月 10 日時点）。WT WTI 原油（WisdomTree WTI Crude Oil；銘柄コード 1690）は米国の WisdomTree 社により運営管理されている ETF であり、値動きは Bloomberg, NYMEX, WTI（West Texas Intermidiate テキサス中西部）原油先物指数に連動する金融商品として設計されている。図 14 に示されているように 4 月初頭から多少の変動は見られたが 2 カ月ほどの期間（2022 年 6 月 10 日までに）で資産合計額（保有株式の時価評価額＋手持ち現金）が約

Aコース/原油/0482

a.取引報告書　　2022年06月10日現在

単位：円

銘柄コード	銘柄名	売買	約定日	株数量	単価	金額	受渡金額	エラー
1690	WT　WTI　原油	買	04月06日	7,950	1,257	9,993,150	9,993,150	

手持現金残高	6,850

b.保有株式の状況

銘柄コード	銘柄名	保有数	現在値	評価額
1690	WT　WTI　原油	7,950	1,619	12,871,050

時価評価額合計	12,871,050
資産合計	12,877,900

図 14　原油先物の投資状況

27％増加となっている。同様に WT 大豆（WisdomTree Soybeans；銘柄コード 1697）は同社により管理されている ETF であり、値動きは Bloomberg 大豆サブ指数トータルリターンに連動する金融商品として設計されている（図 15）。原油 ETF 同様に 2 カ月ほどの期間（2022 年 6 月 10 日までに）で資産合計額（保有株式の時価評価額＋手持ち現金）が約 16％増加となっている。

2 ーインデックス ETF 銘柄とそのヘッジ銘柄（ベア・インバース銘柄）を利用したスイングトレード

市場インデックス（日経平均、TOPIX、米国 S & P500、NASDAQ、DOW、中国パンダ ETF、中国 H、ブラジル BOSPEPA、インド NIFTY　等々）を指標とし、その変動率の 1 倍、2 倍（ブル・ブルダブル ETF 銘柄）、または－1 倍、－2 倍（ベア・ベアダブル、インバース・インバースダブル ETF 銘柄）に連動する ETF 群は、近年　投資家から大きな注目を集めている。

ETF は通常の単品銘柄（例えばダイキン 6367 や KDDI 9433 など）とは異なり、種々のインデックスに連動するように設計されている。インデックス連動型の ETF はそのインデックスを構成する銘柄を構成比率のままに内包する内容となっている。このような ETF の利点は価格の変動率が大きくなる場合があり、数％から 10％程度になることもある。このような ETF 銘柄は Buy & Hold には不適であり、価格上昇の周期をつかまえて、数日から数週間のスパンで売買を繰り返す必要がある。

以下に日経平均のインデックス銘柄（図 16）を示す。日経平均とは日経 225 とも略され、日本を代表する株価指数であり、東京証券取引所プライム市場に上場する約 2000 銘柄のうち流動性の高い 225 銘柄を日本経済新聞社が選定し、225 社の（株価×株価換算係数の平均）から算出されている。225 社のうち構成比率の高い 15 銘柄を載せた（直近 2022 年 1 月のデータ）。日本経済新聞社の判断により、銘柄の時価総額、流動性などにより構成比率が変化する。

日経平均に基づくインデックス ETF は各社からさ

Aコース/大豆/0550

2022年06月10日現在

a.取引報告書

単位：円

銘柄コード	銘柄名	売買	約定日	株数量	単価	金額	受渡金額	エラー
1697	WT　大豆	買	04月06日	2,700	3,696	9,979,200	9,979,200	

手持現金残高	20,800

b.保有株式の状況

銘柄コード	銘柄名	保有数	現在値	評価額
1697	WT　大豆	2,700	4,300	11,610,000

時価評価額合計	11,610,000
資産合計	11,630,800

図 15　大豆の投資状況

▶日経平均の上位構成比銘柄		
1位	東エレク（8035）	8.10%
2位	ファストリ（9983）	8.02%
3位	ソフトバンクグループ（ＳＢＧ、9984）	3.83%
4位	ダイキン（6367）	3.21%
5位	ファナック（6954）	2.99%
6位	アドテスト（6857）	2.68%
7位	リクルート（6098）	2.55%
8位	ＫＤＤＩ（9433）	2.46%
9位	信越化（4063）	2.43%
10位	テルモ（4543）	2.41%
11位	ソニーＧ（6758）	1.78%
12位	京セラ（6971）	1.77%
13位	エムスリー（2413）	1.68%
14位	ＴＤＫ（6762）	1.68%
15位	ＮＴＴデータ（9613）	1.50%

図 16　日経平均のインデックス銘柄

まざまな金融商品として販売されている。以下にブル・ベア（x1、x −1）さらに、2 倍レバレッジのかったＷブル・Ｗベア（x2、x −2）の代表的な銘柄を紹介し、内容を紹介する。

図 17 は 1 倍（ブル）銘柄であり、日々の日経平均の変化そのままの値動きを示している（銘柄コード 1321、野村日経平均ブル ETF、運用管理会社　野村アセット）。一方、図 18（銘柄コード 1580、日経平均ベア ETF、運用管理会社シンプレクス・アセット）は日経平均の価格推移の逆の動きを示している（日経平均に対して −1 倍になるように設計された金融商品である）。

図 19 は 2 倍（Ｗブル）銘柄であり、日々の日経平均の 2 倍の値動きを示している（銘柄コード 1458、日経レバレッジ指数連動型 ETF、運用管理会社　楽天投信）。一方、図 20（銘柄コード 1459、日経ダブルインバース指数連動型 ETF、運用管理会社　楽天投信）は日経平均の価格推移の −2 倍（Ｗベア）の動きを示している（日経平均に対して −2 倍になるように設計された金融商品である）。左右でグラフを比較すると、それぞれ逆の値動きをする銘柄であることがわかる。上下でグラフの推移を比較すると、レバ

図 17　1321 野村日経平均

図 18　1580 日経平均ベア上場投信

レッジのかかった銘柄では日々の値動きの騰落率が大きく（2 倍）になっていることがわかる。

東京証券市場の株式関連インデックスとして、上記の日経平均株価や、他に TOPIX、JPX 日経インデックス 400、東証マザーズ指数、ラッセル野村小型コア・インデックス、JPX 日経中小型株指数などがあり、それぞれ数社の管理会社から ETF として上場され、取引されている。

近年の東証の代表的なインデックス ETF 銘柄（銘柄コード 1306、TOPIX 連動型 ETF、運用管理会社

図 19　1458 楽天 W ブル

図 20　1459 楽天 W ベア

図 21　1306 野村東証指数

野村アセット）の値動きの様子（図 21）を示す。

2021 年 12 月～ 2022 年 6 月までの期間では、ランダムな値動きながら数週間ていどの期間で増減を繰り返していることが示されている。このようなアップダウンのある値動きでは前述の Buy & Hold では利潤が見込めない。

よって株価の上昇トレンドと下降トレンドを判断し、ブル型（上昇トレンド時）、ベア型（下降トレンド時）、あるいはそれぞれのレバレッジがかかった TOPIX 連動 ETF を選択し、騰落トレンドに応じてスイングトレードを行う必要がある。毎日トレンド判断を行わなくてはならず忙しい運用となる。

米国の代表的な株式インデックスである Dow30 種工業平均（Dow Jones Industrial Average、DJIA）や、NASDAQ（National Association of Securities Dealers Automated Quotations）、S & P500 種株価指数（Standard & Poor's 500 Stock Index）なども東証にて国内株として円貨にて取引が可能である。日米の時間差から、NY 株式市場の終値（日本時間　早朝 5 時）の各指数がそのまま東証取引開始 9 時の ETF 価格に反映されるなど、米国市場と時間差の少ない取引運用ができる。以下に示したのは S & P500 種株価指数に連動する ETF である（銘柄コード 2558、S & P500 連動型 ETF、運用管理会社　三菱 UFJ 国際投信）（図 22）。過去 6 ヶ月ほどの値動きはランダムであり、数週間の期間で上昇下降を繰り返している。　NASDAQ も Dow30 種工業平均も同様の傾向であった。

このような値動きでは ETF を買い持ちし、株価の値上がりを待つことは期待が薄いと言わざるを得ない。株価の変動のトレンドを判断し、数週間タームでのスイングトレードが理にかなった運用方法であろう（少なくともこの 6 ヶ月の値動きからの判断）。

しかし、この ETF の過去の値動きを見ると、2020 年 4 月～ 2021 年 12 月末までの約 18 ヶ月はほぼ右肩上がり一直線に株価が上昇していた時期があったことがわかる（図 23）。この時期であれば Bay & Hold（買い持ち）で 2 倍ほどまで株価の時価評価額が上昇している。このようにインデックス ETF による投資運用は時期による価格変動の見極めが極めて重要になるが、それがきわめて難しいのも現実であろう。

図 22　2558MX 米株 SP

図 23　2558MX 米株 SP（2020 年 4 月～ 2021 年 12 月末）

終わりに

これまで　昨年（2021 年）12 月から今年（2022 年）6 月にかけてのいくつかの ETF 銘柄を中心にその値動きを示しながらそれに適するであろうトレード方法を紹介した。

ただし、あくまでもトレードの方法の一つとして紹介したものであり、利潤を上げるという目的のもとでは方法はいくつもあるだろう。株式投資は長期的には非ゼロサムゲームであり、市場全体も投資者全体もプラスになる場合もあれば、世界同時不況や世界戦争などの場合には暴落しマイナスになる場合もあると考えられる。このような大きな動きの中で株価変動の波を把握し、上げる場合にはブル銘柄を、下げる場合にはベア銘柄を選択し、判断の確度によってはそれぞれ 2 倍のレバレッジをかけた銘柄を選ぶ場合もあり得るだろう。実際にゼミ学生たちの投資結果発表などを視聴していると W ブルあるいは W ベアなどの日経インデックスに連動する ETF を選択している場合が多い。さらに研究が進んだゼミ学生などは日本のみならず、米国あるいは新興国の ETF を選択する例も増えてきている（NASDAQ、VIX 短期先物、長期米国債 ETF、インド株式 Nifty50、ブラジル Ibovespa、タイ株式 SET50 など　価格変動率、為替ヘッジの有無を考慮し選択）。このように ETF を中心とした株式投資をトレーニングすることは、日本経済のみならず、穀物・商品・エネルギー流通、国際関係、為替、国債など世界経済全般に目配りのできる学生を育てる上で大きな経験となることだろう。

次回の報告は 2022 年 7 月以降の各種 ETF 銘柄の値動きを中心とした報告をする予定である。世界銀行（The Wold Bank）から世界経済見通し（Global Economic Prospects）が発表され、2022 年秋～ 2023 年前半にかけての世界的な景気減速がアナウンスされている（ウクライナ問題、各国のインフレ対策のための利上げなどの要因）。このような世界の投資環境の変化の中で、ETF 投資運用がどのようなパフォーマンスを示すのか　楽しみである。

参考文献

残念ながら投資シミュレーションを扱った文献は見当たらなかった。

一部、本文中でも触れたが、一般的な ETF の紹介本と ETF の運用取引に役立ちそうな書籍を再度示す。

1 － ETF 大全　野村アセットマネジメント（著）、日本経済新聞出版社（2021 年 5 月）SBN-10 : 4532135117、ISBN-13 : 978-4532135119

2 －東証公式 ETF・ETN ガイドブック（第 7 版）東京証券取引所（著）、東京証券取引所（2020 年 4 月）、ISBN-10 : 4909202099、ISBN-13 : 978-4909202093
　なお、この書籍は JPX のホームページより PDF 書類としてダウンロードも可能

3 －東証公式 ETF・ETN 名鑑（2022 年 6 月版）東京証券取引所（著）、東京証券取引所（2022 年 6 月）、ISBN-10 : 4909202161、ISBN-13 : 978-4909202161

4 －シンプル　ETF でパッシブ投資！: 2022 年改訂版　3 段階でよくわかる！（図解付き投資解説書）Kindle 版　佐々木裕平（著）、金融教育研究所 ; 第 5 版（2015 年 3 月）ASIN : B00VDJEYU4

5 － ETF 投資の教科書 Kindle 版　佐藤茂（著））、（2019 年 3 月）ASIN : B07PNXW8YJ

6 －改訂新版 ETF はこの 7 本を買いなさい 世界 No.1 投信評価会社のトップが教えるおすすめ上場投資信託　朝倉智也（著）、ダイヤモンド社（2022 年 2 月 ）、ISBN-10 : 4478114846、ISBN-13 : 978-4478114841